

氏 名	二井 悠希
学 位 の 種 類	修士 (看護学)
学 位 記 番 号	修士第 2 2 6 号
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 3 条第 1 項
学 位 授 与 年 月 日	平成 2 9 年 9 月 2 0 日
学 位 論 文 題 目	喫煙行動が精神的健康に与える影響：日常的な健康度を指標 とした都市コホート研究 (神戸トライアル) による検討
審 査 委 員	主査 教授 桑田 弘美 副査 教授 河村 奈美子 副査 講師 興水 めぐみ

論文内容要旨

※整理番号	226	(ふりがな) 氏名	にい ゆうき 二井 悠希
修士論文題目	喫煙行動が精神的健康に与える影響：日常的な健康度を指標とした都市コホート研究（神戸トライアル）による検討		
目的	<p>本研究の目的は、喫煙習慣が精神的健康に与える影響、家庭内および家庭外での受動喫煙環境が精神的健康に与える影響の2点を明らかにすることである。</p>		
方法	<p>都市地域住民対象のコホート研究、神戸トライアルのベースライン調査および追跡調査のデータを用いて解析を行った。調査対象者 1,134 名から非該当者を除外した 1,117 名を分析対象とし、横断的検討では、主要調査項目欠損者を除外した 1,109 名を喫煙習慣と精神的健康についての対象とした。受動喫煙環境については、さらに現在喫煙者を除外した 1,055 名を対象とした。縦断的検討では、追跡調査参加者からベースライン時の K6 合計点が 5 点以上の者、うつ病・抑うつ状態既往者を除外した 796 名を喫煙習慣と精神的健康についての対象とした。受動喫煙環境については、さらにベースライン調査時の現在喫煙者を除外した 761 名を対象とした。</p> <p>ベースライン調査時および追跡調査時の精神的不調 (K6:5 点以上) の有無を従属変数、能動喫煙 (現在喫煙/禁煙/非喫煙[参照水準])、家庭内受動喫煙・家庭外受動喫煙 (高頻度/低頻度/なし[参照水準]) を説明変数とし、性、年齢、就労の有無、睡眠時間、1 日飲酒量、朝食欠食の有無、筋骨格系に関する疼痛の有無を調整した多変量調整オッズ比 (OR) と 95%信頼区間 (95%CI) を算出し、受動喫煙については傾向検定を行った。縦断的検討では、上記に加えてベースライン時の K6 合計点、追跡期間中のがん・心疾患・脳卒中発症を調整した。</p>		
結果	<p>横断的検討：能動喫煙について、精神的不調保有 OR (95%CI) は現在喫煙群 1.63 (0.81-3.26)、禁煙群 1.40 (0.92-2.16) であった。家庭内受動喫煙では、低頻度受動喫煙群で 1.11 (0.72-1.73)、高頻度受動喫煙群で 1.08 (0.59-1.98) であった。家庭外受動喫煙では、低頻度受動喫煙群で 1.08 (0.77-1.52)、高頻度受動喫煙群で 1.57 (0.91-2.72) であった。</p>		

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1,200 字程度)

2. ※印の欄には記入しないこと。

縦断的検討：能動喫煙について、精神的不調発生 OR (95%CI) は現在喫煙群 2.90(1.02-8.25)、禁煙群 0.78(0.36-1.71)であった。家庭内受動喫煙では、低頻度受動喫煙群で 0.98(0.46-2.10)、高頻度受動喫煙群で 0.70(0.22-2.19)であった。家庭外受動喫煙では、低頻度受動喫煙群で 0.56(0.33-0.95)、高頻度受動喫煙群で 0.30(0.08-1.11)であり、家庭外受動喫煙の頻度が高いほど精神的健康不調発生リスクが低いことが示された (p for trend=0.012)。

考察

横断的検討では現在喫煙者・禁煙者と家庭内・家庭外受動喫煙の精神的不調保有リスクの有意な増加は認めなかった。一方、縦断的検討において、現在喫煙者は非喫煙者に比べ精神的不調発生のリスクが約3倍であることが示された。受動喫煙では、家庭外受動喫煙がない者に比べ低頻度家庭外受動喫煙群では精神的不調発生リスクが約0.6倍、高頻度家庭外受動喫煙群では約0.3倍で、家庭外受動喫煙の頻度が高いほど精神的不調発生のリスクが低いことを示し、家庭内受動喫煙については有意な関連を示さなかったため、外出など社会参加の機会が影響するのではないかと考えられた。

統括

能動喫煙は非喫煙に比べて精神的不調発生のリスクが高いことが示された。受動喫煙においては、家庭外受動喫煙にのみ精神的不調発生と負の関連を有する可能性が示唆された。